



保育士、 母校に帰る。

共立女子大学編

現在、WITH GROUPに勤めて3年目の加藤さんが卒業以来、久しぶりに母校へ帰ってきた。学生時代に学んだことを活かしながら、保育士として成長する加藤さんに、恩師の白川先生は驚きを隠せないよう。2人の思い出の場所で、学生時代のことを振り返った。

— 共立女子大学の白川教授と卒業生で現在はWITH GROUPの保育園で保育士として活躍中の加藤さんに対談していただきます。本日はよろしくお願います。

【白川先生】 よろしくお願います。

【加藤さん】 よろしくお願います。白川先生、お久しぶりです！児童学科の講義がよく行われた、この3号館が懐かしいです。

【白川先生】 加藤さん、お久しぶりです。大学に帰ってくると、学生時代のことを思い出しますよね。今日はお会いできて嬉しいです。

— さっそく、加藤さんが学生の時のお話を伺いたいと思います。白川先生から「ご覧になって、加藤さんはどんな学生でしたか？」

【白川先生】 加藤さんは、真面目で根強い印象の学生でした。レポートを書く字はとても綺麗で、内容も自分の経験に関連付けていましたよね。講義で話したことをちゃんと実践しているんだなと思っていました。

【加藤さん】 ありがとうございます！白川先生の講義では、子どもの主体性を育み、一人ひとりの発達に合わせた保育を行う大切さを学びました。話し方がやわらかく、とても優しくかったので、学生の間では白川先生のゼミは人気だったんですよ！私は白川先生のゼミではなかったのですが、2度も実習担当として私を支えてくれた時は、本当に心強かったです。

【白川先生】 そうでしたね。実習前の個別面談では、学生の不安を解消させたり、部分実習や責任実習の内容が子どもたち

の発達に合ったものなのか、季節に合ったものかなどを確認したりするので、加藤さんはなにも心配することはありませんでしたよ。もちろん、初めは不安があったかもしれませんが、加藤さんは実習を楽しんでいましたよね！実習先へ訪問した時に子どもたちと笑顔で過ごしている加藤さんの姿を見て、安心しました。

【加藤さん】 実習中に白川先生が来てくれた時は、ホッとしました。実習先では、私がやってみたいと思うことに対して、職員の方々が尊重してくれたので、様々な経験ができました。講義や個別面談でも学んだ、季節に合った保育を意識して計画を立てたおかげもあると思います。

【白川先生】 実習では、どんな活動を行ったんでしたっけ？



共立女子大学 卒業
2020年4月 入社
加藤 葉月
Kato Hazuki

保育士である母の影響で、幼少期から保育士に憧れを抱いていた。子どもの発達について学ぶため、本学に進学。在学中は造形ゼミに所属していた。卒業製作では、丸シールで点描画を製作。

家政学部
児童学科教授
白川 佳子
Shirakawa Yoshiko

現在は家政学部長、発達相談・支援センター長を務め、学内の子育て広場「はるにれ」の運営にも携わっている。主な著書に『子ども家庭支援の心理学』『保育の心理学I』編著（中央法規）がある。